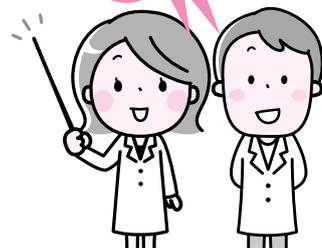


ふうしんのちしきをふか 風しんの知識を深め、 かんせんよぼうたいさく 感染の予防対策をしましょう

こんにちは
保健師です



風しんとは

- 感染力はインフルエンザの2～4倍

風しんは、感染者のせき・くしゃみによる唾液のしぶきによって他人にうつります。感染力はインフルエンザの2～4倍と言われており、感染すると、約2～3週後に発熱、発疹、リンパ節の腫れといった症状がみられます。発疹の出る前後約1週間は他人にうつす可能性があります。ただし、感染しても症状が出ない人が15～30%程度います。

- 大人の風しんが増えています

近年の流行における患者の大半は、30～50歳代の男性です。昭和54(1979)年4月1日以前に生まれた男性は、定期の予防接種の機会がなく、風しんの抗体保有率が他の年代よりも低い現状があります。



予防接種が最も有効

風しんには、予防接種を受けて免疫(抵抗力)をつけることが有効です。風しんにかかったことがない人、予防接種を受けたことがない人、予防接種歴が不明な人は、かかりつけ医に相談の上、抗体検査や予防接種を検討しましょう。

麻疹風しん混合の定期予防接種の対象者は無料で接種できます。未接種の人は接種しましょう。

- 定期予防接種対象者

対象年齢		接種回数
第1期	満1歳以上2歳未満	1回
第2期	5歳以上7歳未満で、次年度に小学校に入学する人	1回

※対象者以外の人は原則、予防接種の料金は全額自己負担となります。

抗体検査で免疫チェック

風しんに対する十分な免疫があるかどうかは、採血による抗体検査で確認することができます。

県では対象者を限定して、無料で風しんの抗体検査を実施しています。

- 対象(原則20歳以上)

▽妊娠を希望する女性

▽妊婦の配偶者・パートナー(妊婦が抗体検査未実施、または抗体検査の結果、免疫が低いことが確認された場合のみ)

※過去に風しん抗体検査を受けたことがある人や風しんの予防接種を受けた人などは対象外です。

- 実施医療機関など、詳細は県ホームページ「平成30年度風しん抗体検査(無料)の実施について」をご確認ください。

☞ <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fushinkoutai-2018.html>



妊娠前に予防接種の検討を

- 妊娠中の女性が感染すると

妊娠初期(20週以前)に風しんにかかると、胎児に感染し、赤ちゃんが難聴・白内障・先天性心疾患を特徴とする先天性風疹症候群を持って生まれてくる可能性が高くなります。

- 妊娠中は予防接種ができません

市の妊婦健診では風しん抗体検査を実施しています。しかし、検査の結果、免疫が低いことが分かっていても、妊娠中は予防接種を受けることができません。妊娠前に抗体検査や予防接種を受けましょう。

※女性は予防接種後、2カ月程度の避妊が必要です。

- 免疫が低い妊婦はご注意ください

妊娠中で免疫が低い人は、風しんが発生している地域では可能な限り外出を避け、人混みに近づかないようにするなど、注意しましょう。



■問い合わせ先・連絡先 子育て支援課 母子児童担当(カミーリヤ内) ☎(920)8611